

九州南部、奄美地方の3月の地域平均気温が統計開始以降、最高となりました

○九州南部・奄美地方の気象官署及び特別地域気象観測所の10地点で3月の月平均気温は統計開始以降、最も高くなりました。

1. 九州南部、奄美地方の3月の地域平均気温は、統計開始（1946年）以降、最も高くなりました。

表1 九州南部、奄美地方の3月の月平均気温が高かった年と地域平均気温平年差

	2021年	これまでの1位	これまでの2位
九州南部	+2.7	+1.8（2013年）	+1.7（2018年）
奄美地方	+1.9	+1.7（1999年）	+1.7（1992年）

2. 九州南部・奄美地方の気象官署及び特別地域気象観測所の10地点で3月の月平均気温は統計開始以降、最も高くなりました。

表2 気象官署及び特別地域気象観測所の3月の月平均気温

順位	地点名	値()	平年値()	平年差()	これまでの1位() (西暦年)	統計開始年
1	延岡	13.7	10.7	+3.0	12.8 (2013年)	1962年
1	阿久根	14.2	11.3	+2.9	13.1 (1942年)	1940年
1	鹿児島	15.6	12.5	+3.1	14.5 (2018年)	1883年
1	都城	13.8	10.7	+3.1	12.9 (2013年)	1943年
1	宮崎	14.7	11.9	+2.8	13.8 (2013年)	1886年
1	枕崎	15.1	12.4	+2.7	14.4 (1992年)	1924年
1	油津	15.3	12.6	+2.7	14.5 (2013年)	1949年
1	種子島	16.3	14.4	+1.9	16.2 (2013年)	1949年
1	名瀬	18.8=	17.1	+1.7	18.8 (1992年)	1897年
1	沖永良部	20.0	18.0	+2.0	19.8 (1999年)	1970年
3	屋久島	16.2=	14.3	+1.9	16.4 (1966年)	1938年

順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

3. 記録的高温になった要因

記録的高温となった要因は、寒気の流れ込みが弱く影響を受けにくかったことや、日本の東海上で強まった高気圧周辺の南寄りの風が卓越したことが考えられます。また背景として地球温暖化の影響も考えられます（別紙参照）。

問合せ先：鹿児島地方気象台 季節予報担当
電話 099-250-9912 FAX 099-255-4234

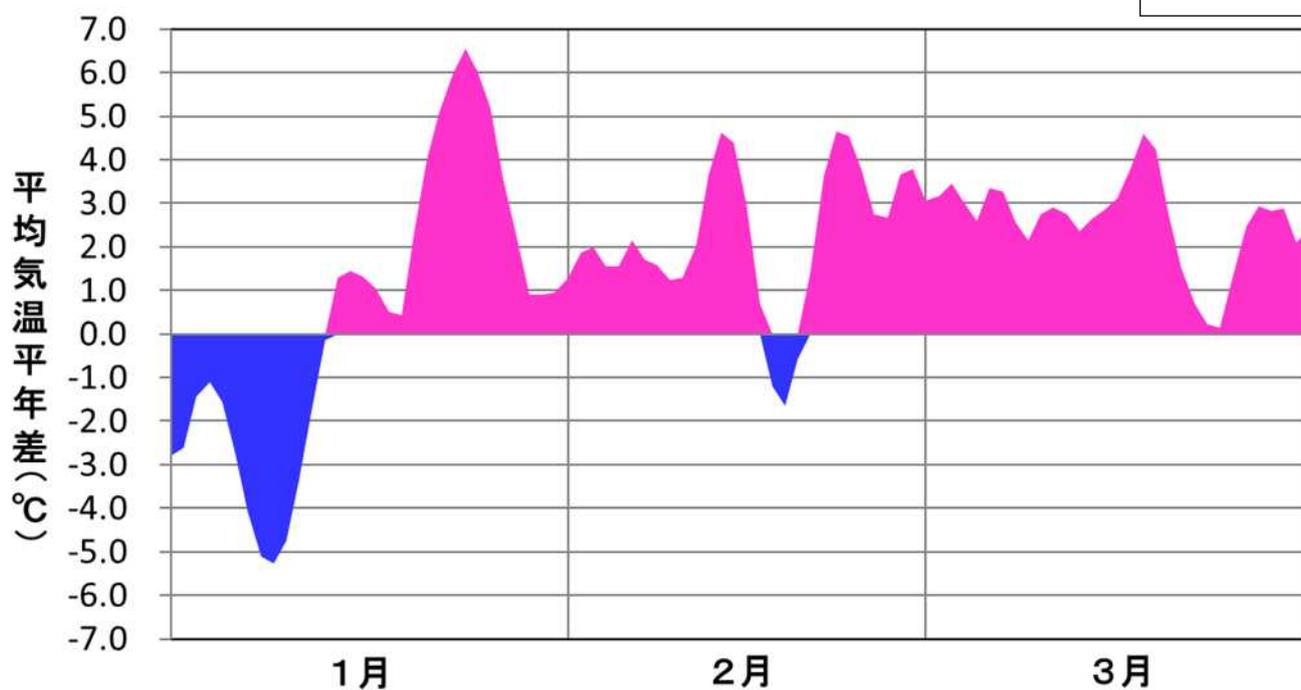


図1 九州南部の地域平均気温平年差の時系列（5日移動平均値）
（2021年1月～2021年3月）

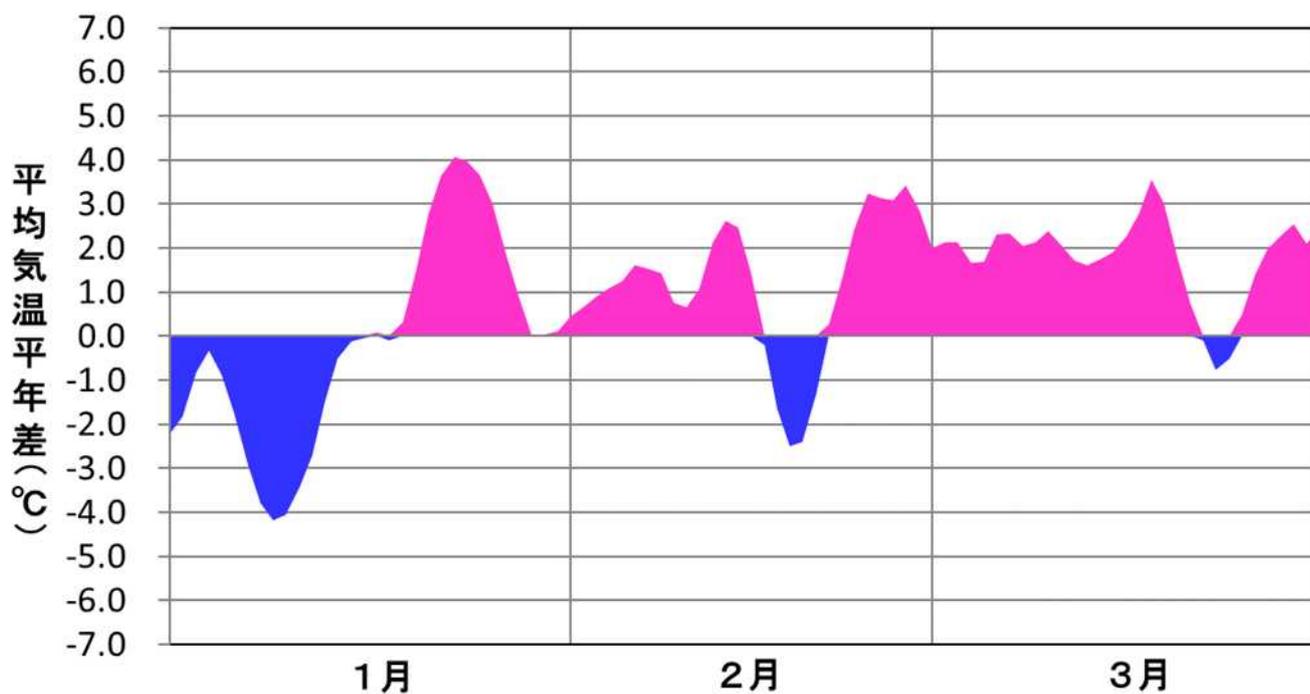


図2 奄美地方の地域平均気温平年差の時系列（5日移動平均値）
（2021年1月～2021年3月）

地域平均気温平年差は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい・寒いかを地域全体でみるもので、九州南部は9地点、奄美地方は2地点における気温の平年差を平均して算出しています。

気温が高かった要因

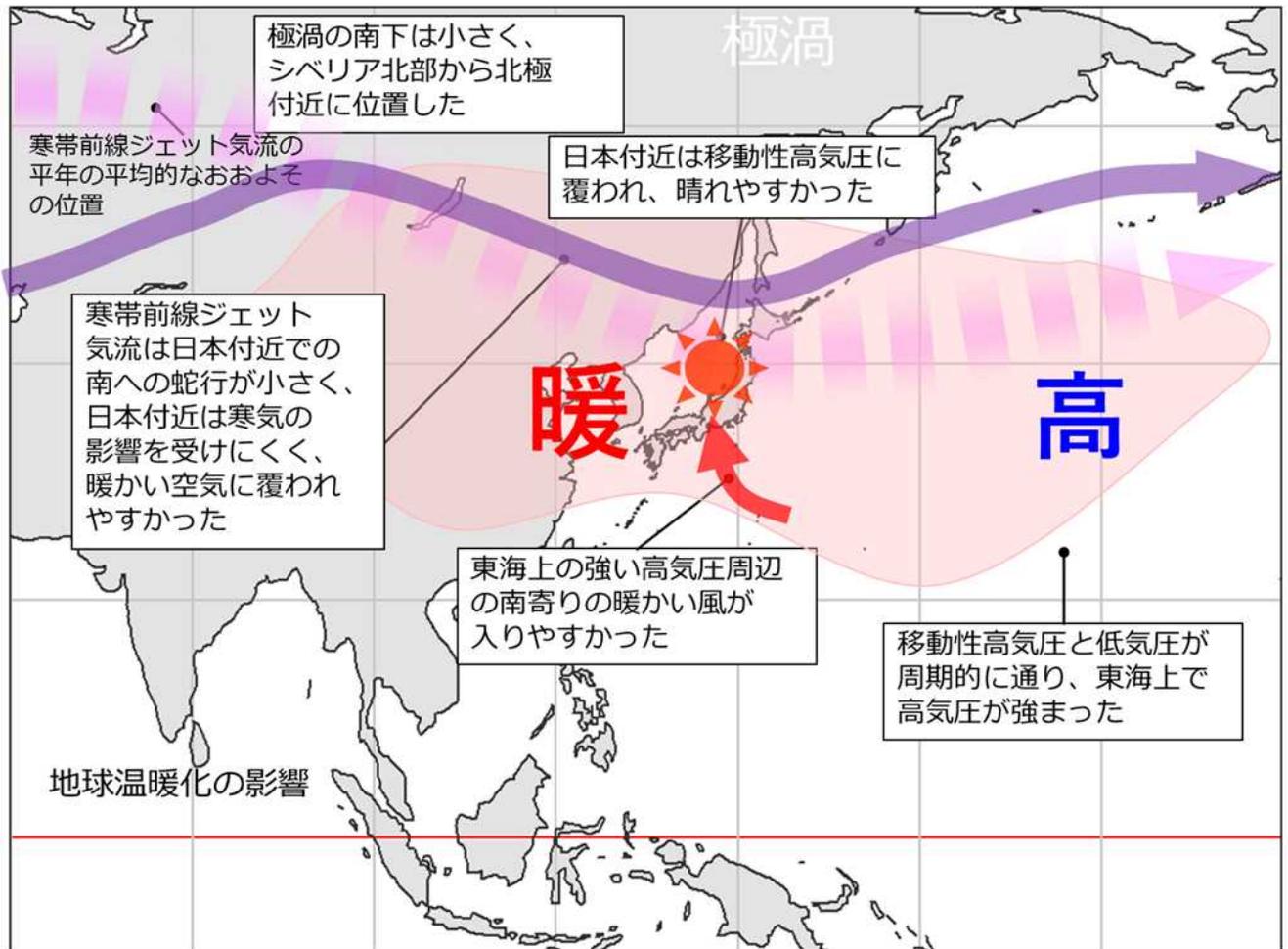


図3 2021年3月の平均的な大気の流れの模式図

図のピンクで示した領域は上空1500メートルで平年より2℃以上高いことを示す。

- 極渦の南下は小さく、シベリア北部から北極付近に位置していました。
- 日本付近では、寒帯前線ジェットが日本の北を流れやすかったため、寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われやすくなりました。
- 高気圧は日本の東海上で強まりやすくなったことから、高気圧後面の南寄りの暖かい風が入りやすくなりました。
- 日本付近は移動性高気圧に覆われやすく晴れることが多かったことも、高温に影響していると見られます。
- 背景として地球温暖化の影響も考えられます。